



高橋 聖子

【第1課題】

高橋 聖子

人工的に作られたフラットな地盤の上を均質な区画グリッドが無限に広がっていくようなエリアその人工的な環境計算された羅列透明な塔の上視界を広げてグリッドの美しさを眺めてみよう家の波家の海非日常へのトリップそれは最も人工的で壮大なランドスケープである

指導＝西沢 立衛

均質で特徴のない、どこにでもあるような郊外型の、住居専用地域を対象とした課題。遊具三点セットから成るおきまりパターンの公園様式にとらわれない

ような、自由な提案を求めた。ということでいろんな公園が出てきたが、中でも高橋氏の案は、とうてい公園に見えない最右翼である。しかし公園というプログラムの中核にある「公共性」の意味を、氏なりに問い直している。プログラムを与えられたものとして受容するのではなく、逆に自分から積極的に構築しようとする姿勢に共感したい。さて、僕がこの案に惹かれた最大の点というのは、ニュータウンという周辺環境の特性を考え、それをデザインに反映させるということ、この案がもっとも果敢にチャレンジしていた点にある。どこまでも広がってゆくかのような住戸の人工的な配列を、一種の自然現象のよ

うに美しく柔らかい反復として再視覚化させようというコンセプトが、高橋氏をして公園を地上ウン十mにまで持ち上げさせてしまったのだ。氏のコラージュドローイングはたいへん美しくコンセプチュアルで、ドローイングが苦手だと自認する人間の成果ではない。ガラスは見えないはずだという魔術的仮説に従って作られたガラスのハイタワーというアイデアも大胆きわまりない。しかし僕は、周辺環境の解釈を通して公園を定義しようとするその点を、最大限評価しなかった。否定的に捉えられがちなニュータウンの均質性を最大限肯定しようという姿勢もすばらしい。(しかし四本でなくてもいい気もした)

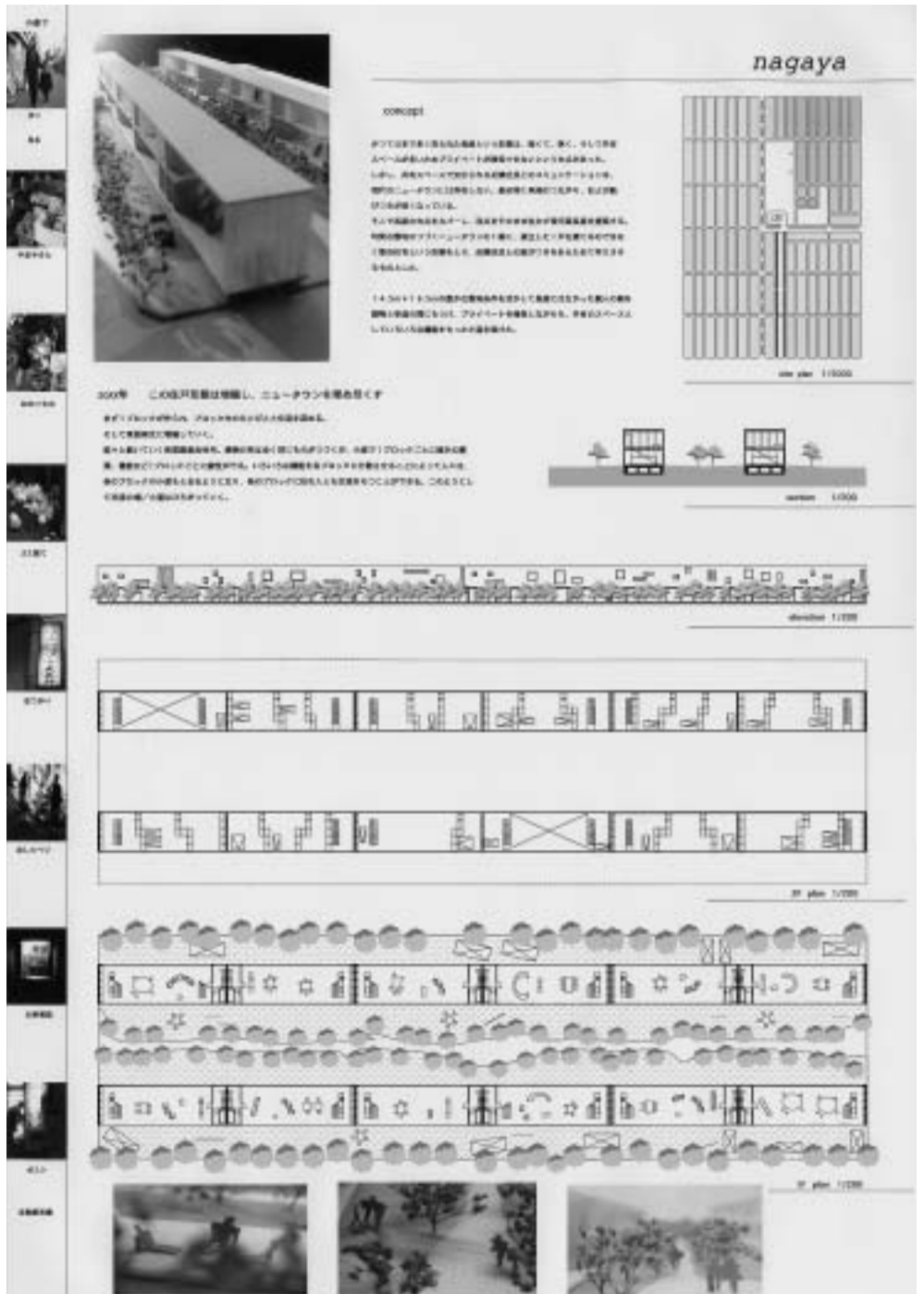
設計演習 I

第1課題
ニュータウンの公園

第2課題
ニュータウンの住宅

3年1組

担当：
西沢 立衛



黒川 千聡

**【第2課題】
黒川 千聡**

現在、ニュータウンに限らず隣人との結びつきがなくなりつつある。そこで、隣人と深くつき合うために敷地の境界線をなくし、領域を曖昧にし、パブリックな庭、プライベートな庭の2種の庭を設けた。人はまん中に設けられた遊歩道を通り、隣人だけでなくブロックに住む人、さらに隣のブロックに住む人というように、人とのつながりを広げていくことができる。

指導=西沢 立衛

黒川氏の案は、1ブロック内の戸建て住宅十数戸をまとめて計画した、テラスハウスのような集合住宅の計画である。特徴は

おおまかに言って二つあって、まず一つはブロック中央線上に各住戸がシェアする路地のような通り抜け動線を作ったことで、これによってブロック内の全住戸に路地側と公道側の二方向アクセスを可能にしている。みんなでシェアする路地というアイデアには、何かちょっと昔の下町が持っていた路地にも共通するようなプライバシーを感じたりもして、魅力的なコモンスペースが生まれそうである。二つ目は各住棟ボリュームの配置で、南庭確保のために住棟ボリュームを敷地北側に配する通常の配置セオリーに反して、氏の案では住棟をおのおの敷地中央に配している。この中央配置によって、全住戸の南と北に庭

が作り出され、密度の高い住宅地の中であって公道から距離を保ちつつも開放的なインテリアを生みだすことに成功している。南北の二方向アクセスというマスタープランにも合っている。各住戸の平面計画と、ブロック全体のマスタープランとがたいへん巧みに連携した、優れた集合住宅の計画だと思った。庭と住戸と路地がストライプ状に配された全体配置も軽やかでスマートだ。他方、このストライプパターンが見せる規則的な反復の美しさは、ニュータウンが既存に持っている都市マスタープランと多少バッティングしているような気もしないでもない。作者の更なる分析を待ちたい。